



三中だより

2025年12月25日
12月号

調布市立第三中学校

「北風と太陽」

校長 児山 友美

朝晩の冷え込みが一段と厳しくなったこの時期になると思い出します。イソップ童話があります。

「あるとき、どちらが旅人のマントを脱がすことができるかを競うことになった北風と太陽。まずは、北風が力いっぱい冷たい風を吹きつけました。しかし、旅人は、風が吹けば吹くほどマントをしっかりと握りしめ、離そうとしません。結局、北風は旅人のマントを脱がすことができませんでした。次に太陽の番になり、旅人をぽかぽかと温かく照らしました。すると旅人は、暑さで我慢ができなくなり、自分からマントを脱ぎました。この勝負は、太陽の勝ちとなりました。「人は、力より優しさに心を動かされるものなのだよ。」」

「北風と太陽」というお話ですが、私はこの童話に強く心を打たれたことを今でも覚えています。北風のような関わり方は、一時的に相手を動かすことがあるが、心までは動かせません。一方で、太陽のような関わり方は、時間がかかるが、人の心を温かくし、自分から動く力を生み出します。

本日、2学期の終業式を迎えました。今学期も生徒たちは学習や行事、部活動など多くの経験を重ね、心身ともに成長した姿を見せていました。その毎日の生活の中で、太陽のような言葉をかけた人、太陽のような行動をした人が、きっといたはずです。「大丈夫?」「一緒にやろう」「ありがとう」そんな短い言葉が、誰かの心をほどき、前を向かせたこともあったことでしょう。

明日から始まる冬休み。生徒たちには、家庭や地域でも、太陽のような存在でいて欲しいと思います。そして、3学期。生徒たちが学校に戻って来たとき、「学校にいると、心が温かくなる」そう感じられる場所を、皆さんと一緒につくっていきたいと思います。

保護者・地域の皆様には、2学期も本校の教育活動に温かいご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。3学期も、生徒一人一人が安心して学び、前向きに成長できる学校づくりを進めてまいります。新しい年に、みなさんと元気な笑顔で再会できることを楽しみにしております。



2年 平和教育講座

11月20日(木) 2年生で平和学習を行いました。「平和を創る主体者たれー被爆者・吉田勲さんの人生に学ぶー」をテーマに講演活動をおこなっている田平由布子さんを講師にお招きし、戦争と核兵器（核実験）について通常の授業とは違った角度から学ぶことのできる内容でした。講師の先生から原爆や核実験による被爆者の方々の平和啓発活動の内容を語っていただき、今後戦争がない世界にしていくために自分たちにできることは何かを考えるきっかけとなった講座でした。

「いのちの授業」

12月6日(土) に調布市『いのちとこころの教育月間』による取り組みの一環である「いのちの授業」を行いました。今年度はNPO法人日本ピーススマイル協会の越智 創さんにグループワークを中心とした講座を行っていただきました。二人組や複数人でお互いに相手を褒めうところからスタートし、次に「自分と向き合う時間」として言われてうれしかった言葉、励まされ立ち直ることができた言葉を書き出し、考えてきました。改めて言葉にして伝えることは難しいと感じる生徒も多かったようです。最後に講師の先生から「言葉によって自分にも生きる力が湧き、相手も生かされている。中学生の皆さんには可能性に溢れている」というお話をいただきました。